

診療情報を利用した臨床研究について

虎の門病院消化器内科では、以下の臨床研究を実施しております。この研究は、通常の診療で得られた記録をまとめるものです。この案内をお読みになり、ご自身やご家族がこの研究の対象者にあたると思われる方の中で、ご質問がある場合、またはこの研究に「自分や家族の診療情報を使ってほしくない」とお思いになりましたら、遠慮なく下記の相談窓口までご連絡ください。

【対象となる方】

調査対象となる期間： 1997年4月～2017年9月までに、早期大腸癌のために虎の門病院に入院・通院し、内視鏡切除または手術を受けられた方

【研究課題名】

人工知能とデータ大循環によって実現する、大腸内視鏡診療の革新的転換
「転移/再発予測ソフトウェア」

【研究の目的・背景】

《目的》

内視鏡治療後の外科手術が必要か否かの判断をサポートする人工知能モデルを作成します。

《研究に至る背景》

現行の大腸癌治療ガイドラインでは、内視鏡治療された早期大腸癌のうちリンパ節転移のリスクを認めるものは、追加で外科手術を推奨しています。しかしガイドライン通り手術を行っても実際にリンパ節転移している例は全体の10%で、残りの90%はリンパ節転移を認めず、結果的に必要の無かった手術となってしまいます。しかしそれを術前に正確に予測することは極めて困難です。この“結果的に必要の無かった手術”を少なくするためにSVM(support vector machine)と呼ばれる人工知能を用いて、これまでに早期大腸癌のために手術を受けた患者さんの様々な情報を学習させ、リンパ節転移の有無を予測できるモデルを作成することを目指します。

本研究はAMED(国立研究開発法人日本医療研究開発機構)の研究費を元に施行されます。

【研究のために診療情報を解析研究する期間】

2018年5月25日 ～ 2022年3月31日

【単独／共同研究の別】

多施設共同研究

【個人情報の取り扱い】

お名前、ご住所などの特定の個人を識別する情報につきましては特定の個人を識別するこ

とができないように個人と関わりのない番号等におきかえて研究します。学会や学術雑誌等で公表する際にも、個人が特定できないような形で発表します。

また、本研究に関わる記録・資料は昭和大学横浜市北部病院 消化器センター 工藤進英のもと当該論文等の発表後 5 年間保管いたします。保管期間終了後、本研究に関わる記録・資料は個人が特定できない形で廃棄します。

【診療情報を虎の門病院外へ提供する場合】

診療情報は虎の門病院で特定の個人を識別することができないように個人と関わりのない番号等におきかえただうえで、昭和大学横浜市北部病院 消化器センターへパスワードロックのかかった外付けHDDをハンドキャリアで渡すか、あるいはセキュリティが確保されたセキュアストレージシステムを介して提供いたします。

【利用する診療情報】

診療情報： 診療記録(内視鏡所見、病理所見、血液検査含む)

【研究代表者】

昭和大学横浜市北部病院 消化器センター 工藤進英

【虎の門病院における研究責任者】

研究責任者 消化器内科 布袋屋修

研究代表者 消化器内科 山下聡

【利用する者の範囲】

名古屋大学大学院情報科学研究科

森 健策

サイバネットシステム株式会社

華原 革夫

国立がん研究センター中央病院 検診センター

松田 尚久

大腸肛門病センター高野病院

山田 一隆

東京医科歯科大学 光学医療診療部

大塚 和朗

静岡県立静岡がんセンター 内視鏡科

堀田 欣一

がん研究会有明病院 下部消化管内科

斎藤 彰一

昭和大学横浜市北部病院 消化器センター

森 悠一

【研究の方法等に関する資料の閲覧について】

本研究の対象者のうち希望される方は、個人情報及び知的財産権の保護等に支障がない範囲内に限られますが、研究の方法の詳細に関する資料を閲覧することができます。

【ご質問がある場合及び診療情報の使用を希望しない場合】

本研究に関する質問、お問い合わせがある場合、またはご自身やご家族の診療情報につき、

開示または訂正のご希望がある場合には、下記相談窓口までご連絡ください。
また、ご自身やご家族の診療情報が研究に使用されることについてご了承いただけない場合には研究対象といたしませんので、2020年2月28日までの間に下記の相談窓口までお申し出ください。この場合も診療など病院サービスにおいて患者の皆様には不利益が生じることはありません。

【相談窓口】

虎の門病院 消化器内科 山下 聡

電話 03-3588-1111(代表)